

# 事業継続マネジメントシステム BS25999の 審査サービスをスタートします。

## あらゆる組織体に必要な取り組みを強力にサポート

最近、新型インフルエンザの世界的流行による脅威がメディアでよく取り上げられている。このような災害や事故、事件などが起きたときに、速やかにかつ円滑に事業の継続を図ることは、企業、自治体といった種別に関わらず、あらゆる組織体に必要不可欠な取り組みとして注目されるようになってきた。

この取り組みは事業継続マネジメント(BCM: Business Continuity Management)と呼ばれ、世界各国で積極的に導入が進められている。JQAではBCMの取り組みをシステム化した事業継続マネジメントシステム(BCMS: Business Continuity Management System)のデファクトスタンダードとなっているBS25999(英国規格)の審査を本年3月より開始し、日本におけるBCMSの広がりに応え、リスクに強い社会の形成をサポートしていく。

実際の審査に携わるJQA審査技術センターの馬渡俊一参与(主任審査員)、中村春雄参事(審査員)から、BS25999の概要やJQA審査の特長などについて聞いた。

### あらゆる組織体に必要不可欠な 事業継続マネジメントシステム

「グローバル化が進み、社会の多層化・複合化が進んだ現在では、事業継続マネジメントは不可欠な取り組みです」と馬渡参与はいう。たとえば災害が起きた場合に企業活動を継続できるかどうかは、その企業だけの問題ではない。顧客、取引先、地域住民、株主など関連するあらゆるステークホルダーに甚大な影響を及ぼす問題となる。

「サブプライム問題もそうですが、複雑になった社会の仕組みのなかで何か起こると一気に企業の存続を脅かすような事象が猛烈な勢いで襲ってくる可能性があります。たとえばグローバルに部品を供給する企業が地震等で被害を受け、サプライチェーンが滞るような事態になれば、世界中で仕事ができなくなるといった事象も起こるので」と中村参事が現実の脅威を伝える。問題は企業だけではない。万が一、新型インフルエンザのような疾病が流行した場合、自治体の行政サービスが提供できなくなるケースも考えられ、地域社会全体が困ることとなる。事業継続マネジメントは企業や政府、自治体などあらゆる社会組織が、関連するステークホルダーに対して責任を果たす上でも、必要不可欠な取り組みであるといえる。

BCMは、効率よく運用していくことも求められるが、「実際のところBCMSにきちんと取り組むことは、経営者や従業員の事業に対する意識改革にもつながります。何

がステークホルダーに重要なのかを考えることは、自分たちの組織体にとっての本当のコア事業が何かを明確にするきっかけにもなるのです」と馬渡は指摘する。グローバルなサプライチェーンでは、世界から求められるものも大きい。事業継続への理念や方針をわかりやすく伝えながら事業を進めることによって、世界のステークホルダーにより一層の安心感や信頼感が生まれる。そういう面でも重要性は高く、BCMSはまさに社会全体から求められる責任ある企業活動の一環である。

### BS25999は事業継続のための 包括的マネジメントプロセスの標準規格

事業継続に対するリスクマネジメントはISO27001とISO20000の要件にも含まれているが、これらは主に災害が発生した時に情報システムを速やかに復旧させることに主眼が置かれている。翻ってBS25999は情報システムにとどまらず、事業活動全般を対象とした事業継続のための包括的マネジメントプロセスの標準規格となっているところが大きなポイントである。実際の運用では組織体があらかじめ設定した事業継続の基本方針(BCMS方針)をベースに、主要な製品およびサービスの実現をサポートする活動を特定し、活動の中断によって生じる影響と、それらが時間の経過とともにどのように変化するかを判断する事業インパクト分析(BIA: Business Impact Analysis)を行う。さらに、重要な活動と活動を支える経営資源に対



中村春雄参事(審査員)

馬渡俊一参事(主任審査員)

する脅威や脆弱性を精査するリスクアセスメントを実施し、事業継続計画(BCP: Business Continuity Plan)を策定する。そしてこのBCPに基づいた演習(シミュレーション)を実施し、その結果を反映したさまざまなBCMの活動を評価し、必要な改善を図っていく。

BCMSは、ただ策定し審査を受けるだけでは本来の役割を果たせない。演習と継続的な改善が求められる。中村は「演習もすべて行っている期間は期間が過ぎますが、たとえば地震で、台風で、新型インフルエンザでオフィスに入れない状況の時にどうするのかなど、複数の要因から結果として起こるある事態に絞って優先的に取り組めば、複数のリスクに対応できます」と具体的なポイントをあげた。

「BCPは、サービスを提供するための重要な業務をある一定の水準に保つために「時間」を非常に意識している点の特徴です。またレジリエンシー(しなやかな回復力)という表現を使うのですが、回復力を最重要視するところも大きな特徴です」と中村が言及すると、馬渡は「たとえば完全に元の状態に戻す数カ月後まで待つのではなく、1週間後までには主要なA製品を復旧させよう、1カ月後には次に主要なB製品の復旧をとるように、時間軸を明確にして、そのためには何をしなければならないかの行動計画を立てる。それも自分たちの要求ではなく、ステークホルダーが何を求めているかを意識して判断するのです」と補足する。このBCPは業種によって大きく異なり、組織体ごとに独自の判断が必要とされる。

BS25999自体は英国規格であるが、たとえば情報セキュリティにおいても日本では当初BS7799(英国規格)でスタートし、その後ISO27001へとスムーズに移行され、運用されてきた歴史がある。

また、他のマネジメントシステムと同様にPDCAサイクルの活用と2段階の登録審査であることから、組織においては違和感なく取り組むことができるだろう。

## 経験豊富な審査員が提供する JQAのBCMS審査サービス

BCMはさまざまなマネジメント要素で構成され、多様な審査技術が必要とされる。JQAではISO9001やISO27001など数多くの規格の認証審査を実施しており、BCMが対象としているあらゆる業種をカバーする業種経験と審査経験が豊富な審査員を多数擁している。さらに馬渡、中村には実際にBCP策定の経験があり、これらのことがJQAのBCMS審査の技術的な裏付けとなり信頼性を高めている。

JQAは信頼性の高いBCMS審査を通じて、多様な組織のBCMSの取り組みを継続的にサポートし、リスクに強い社会を築く一助になりたいと考えている。



BS25999英和对訳版  
第1部: 実践規範(左)、  
第2部: 仕様

規格の入手はこちら  
財団法人日本規格協会  
出版サービス第一課  
TEL. 03-3583-8002  
注文専用FAX. 03-3583-0462  
<http://www.webstore.jsa.or.jp>

料金・スケジュールなど詳しくは下記まで

JQAマネジメントシステム部門 推進センター

**03-6212-9539**

(月～金曜日・9:00～17:25/祝祭日を除く)